



富士北麓公園 屋内練習走路竣工式  
(平成30年8月3日)



第50回山梨県消防団員操法大会  
(平成30年8月5日)



## 高校生議会 (平成30年8月6日) 挨拶要約

本日の高校生模擬議会ですが、開催の実現に至った経緯についてご説明いたします。

平成27年6月、公職選挙法等の一部を改正する法律が成立、公布され、今回の法改正により、満18歳以上の者が選挙に参加することができるようになりました。

このため、選挙の重要性や政治に興味を持ってもらえるよう、高校生の模擬議会の開催の実施について、私の議長選挙の公約として発表し、実施にこぎつけたところであります。

私は現在、議長職を務めさせて頂いてありますが、多くの目標を示し、実行し、そして、知事執行部と討論することが、勝負であり職務であると考えております。

高校生の諸君もこれからの人生において、様々な困難が襲うことでありましようが、何事に付け、出来ない理由を探すのではなく、決して諦めず、慧可断臂の気概をもって倦まず弛まず努力を重ねれば、その目標は達成できるものであります。

最後に私からお願いがあります。それはこういった模擬議会は全国でも行われておりますが、往々にして議員や議会の自己満足で終結しております。

しかし私が目指すことは県議会の作法にのっとりて会議を進め、県執行部と討論をし、時として執行部から議員が驚くような答弁を期待するものであります。

また、本日の経験を在校生すべてに皆さんのことばでお伝えし理解を深めていただきたいと思います。



「鎌倉往還」、千年余後の  
今も発展途上です  
鎌倉幕府は「イクニ」から  
「イイハコ」へ

「灯台下暗し」という格言があります。海上の航海路の安全対策として設置されている灯台は、はるか10数キロ先の航路までを照らし出しますが、その真下は暗くてよく見通しが聞かない。転じて、自分から離れた場所とは分かって、身近な事については意外と知らないことが多い、というたとえ話です。日本一の山・富士山を毎日眺めている山梨県民で、「富士山には登ったことがない」という人が意外と多いという調査結果もあります。

地域の自然や歴史についても同じことが言えます。自ら日々暮らしている地域のことを、他所に住んでいる方から初めて教えられて、「ああ、そうなのか」と気付かされることも珍しいことではありませんし、学校で勉強した小中学生から教えられることさえあります。私たちの生活基盤となっている富士北麓の歴史や自然について、改めて再チェックをしてみようというのが、このコラムの目的です。

これまで「古の小径」として、新たに富士河口湖町のエリアに加わった「中道往還」の古道について、その歴史を“おさらい”してみました。

しかし、富士北麓地域にとって、歴史的にも、現在も大きな役割を果たしてくれているのは、甲府盆地から御坂峠を越えて河口湖畔、山中湖、御殿場を経てかつては幕府の所在した鎌倉へと続く旧「鎌倉往還」を軸とする道路網です。「鎌倉往還」は千年以上も前から現在に至るまで、治安道路でもあり、生活道路、物流道路であり、現在は観光道路としても貴重な役割を担っています。

ところで、一般的な歴史認識として県民の中には「鎌倉往還」は「源頼朝が開いた鎌倉幕府との、交通手段として発達したことに起源とする」と思っている人が少なくないようです。歴史に関しては、近年の研究によって新しい認識が定着しつつあります。

今、中年以上の方は、鎌倉幕府の成立は「イクニツクロウカマクラバク」のロゴを暗記して、幕府のスタートは1192年と確信している方も少なくないようです。当時としては、答案用紙への記載はそれが正解でした。ところが今の教科書には、「幕府が形成されたのは1185年」と記載されています。【イクニ】から【イイハコ】になっています。年代変更の経緯は長くなってしまいますが、要約すると、「東日本の統一を成し遂げ、鎌倉の政権基盤の発足は1185年。さらに、頼朝が征夷大將軍となったのが1192年」で、現在の教科書には「幕府成立はイクニ」だったとは載っていません。

“誤解”の意味合いは異なりますが、「鎌倉往還」成立の起源は、鎌倉幕府成立ではなく、遠く大化改新(645年)あたりまで遡ります。この頃、律令制度の整備と共に宮中の所在する都と地方の国衙(現在の県庁)を結ぶ道路網の整備が始まりました。甲斐の国にも都への道が開かれ、これが

甲斐路とか御坂路と呼ばれました。延長5年(927年)に完成した記録「延喜式」には甲斐国の官道として、加古(現在の籠坂)、川口、水市(現在の御坂町)の3つの駅の存在が記され、現在の国道137号、138号とはほぼ同ルートだったことが分かります。鎌倉幕府が開設されてからは、甲斐と鎌倉を結ぶルートとして重要な街道になったというのが近世の流れでした。さらに「鎌倉往還」と呼ばれるようになるのは交通制度が整えられた江戸期のこのようだと推測されています。交通要路としての改良、整備がその後も、近代から、現代、そして今現在まで延々と続いているのが歴史の道「鎌倉往還」です。

地域の暮らしから辿る鎌倉往還の現代のハイライトは、「国道8号」として登録された昭和に入ってからだと言えるでしょう。国道とはいっても道路の最頂部は海拔1520㍎の御坂峠でした。車では通行不能でした。

悲願のトンネルの掘削が始まったのは昭和5年(1930)でした。同年10月、河口湖側で起工式が行われ旧街道を迂回して三ツ峠山腹を通過する現在のルートを開削、トンネル貫通は翌年5月でした。併せて河口・船津間の道路も整備され国道としての機能が完成したのは昭和7年3月でした。「昭和の鎌倉往還」です。全長396メートルの御坂トンネル掘削とその関連工事には地元の働き手はか600余人が入り、延べ36万余人の力で驚異的な短期間で完成しました。地元の人々の喜びは計り知れず、その後、国道137号に改称された今も、高齢の方の中には、この道を「国道8号」と言う人もいます。開通70年余を経たトンネルは、今、文化庁の貴重な近代遺産として、国の登録有形文化財に指定されています。

全線が整備された直後の昭和9年秋には、トンネルの河口湖側一角に、峠の休憩所が建てられ、「富士見茶屋」「天下茶屋」などと呼ばれました。茶屋に逗留中の文人・井伏鱒二を訪ねた駆け出し作家時代の太宰治が昭和13年9月から11月までの3カ月余を過ごし、『富岳百景』の作品を書き残しました。太宰没後には、井伏らが呼びかけ人になって、「富士には月見草がよく似合う」の太宰自筆の一節を刻んだ文学碑が建てられました。皇太子時代の今上天皇陛下も見学にお越しになり話題になりました。

大型車両も通行できるようになった新しい道でしたが、戦後の経済復興による交通量の増加は、旧道規模では支えるのが不可能になり、昭和42年(1967)には現在の御坂有料トンネルが開通し、その後無料化されて現在に至っています。

新トンネル開通の一方で、さらなる交通需要が進行し、トンネルを挟んだ関連道路の改良が継続され、登り車線の2車線化などにより富士北麓・甲府盆地の車での所要時間はさらに短縮されました。近年は関係筋から「御坂第3トンネル」の要望が持ち上がるなど、「鎌倉往還」の変貌はなおも続きそうです。



甲斐路とか御坂路と呼ばれました。延長5年(927年)に完成した記録「延喜式」には甲斐国の官道として、加古(現在の籠坂)、川口、水市(現在の御坂町)の3つの駅の存在が記され、現在の国道137号、138号とはほぼ同ルートだったことが分かります。鎌倉幕府が開設されてからは、甲斐と鎌倉を結ぶルートとして重要な街道になったというのが近世の流れでした。さらに「鎌倉往還」と呼ばれるようになるのは交通制度が整えられた江戸期のこのようだと推測されています。交通要路としての改良、整備がその後も、近代から、現代、そして今現在まで延々と続いているのが歴史の道「鎌倉往還」です。

地域の暮らしから辿る鎌倉往還の現代のハイライトは、「国道8号」として登録された昭和に入ってからだと言えるでしょう。国道とはいっても道路の最頂部は海拔1520㍎の御坂峠でした。車では通行不能でした。

悲願のトンネルの掘削が始まったのは昭和5年(1930)でした。同年10月、河口湖側で起工式が行われ旧街道を迂回して三ツ峠山腹を通過する現在のルートを開削、トンネル貫通は翌年5月でした。併せて河口・船津間の道路も整備され国道としての機能が完成したのは昭和7年3月でした。「昭和の鎌倉往還」です。全長396メートルの御坂トンネル掘削とその関連工事には地元の働き手はか600余人が入り、延べ36万余人の力で驚異的な短期間で完成しました。地元の人々の喜びは計り知れず、その後、国道137号に改称された今も、高齢の方の中には、この道を「国道8号」と言う人もいます。開通70年余を経たトンネルは、今、文化庁の貴重な近代遺産として、国の登録有形文化財に指定されています。

全線が整備された直後の昭和9年秋には、トンネルの河口湖側一角に、峠の休憩所が建てられ、「富士見茶屋」「天下茶屋」などと呼ばれました。茶屋に逗留中の文人・井伏鱒二を訪ねた駆け出し作家時代の太宰治が昭和13年9月から11月までの3カ月余を過ごし、『富岳百景』の作品を書き残しました。太宰没後には、井伏らが呼びかけ人になって、「富士には月見草がよく似合う」の太宰自筆の一節を刻んだ文学碑が建てられました。皇太子時代の今上天皇陛下も見学にお越しになり話題になりました。

大型車両も通行できるようになった新しい道でしたが、戦後の経済復興による交通量の増加は、旧道規模では支えるのが不可能になり、昭和42年(1967)には現在の御坂有料トンネルが開通し、その後無料化されて現在に至っています。

新トンネル開通の一方で、さらなる交通需要が進行し、トンネルを挟んだ関連道路の改良が継続され、登り車線の2車線化などにより富士北麓・甲府盆地の車での所要時間はさらに短縮されました。近年は関係筋から「御坂第3トンネル」の要望が持ち上がるなど、「鎌倉往還」の変貌はなおも続きそうです。

明日の山梨を元気に！  
もっともっと  
SHIRAKABE

山梨県議会議員  
白壁賢一  
活動レポート  
【発行元】白壁賢一

Vol.40  
2018/9



## 避難勧告に対する 住民との意思疎通の重要性 今夏の異常気象と豪雨災害で 改めて痛感

今年の夏は、異常気象が続きました。富士北麓地域を含む関東甲信地方は、観測史上例を見なかった6月中に梅雨明けが宣言され、以後は一時期を除いて甲府盆地は連日の猛暑日、北麓地域でも前例の無い真夏日が観測されました。

この間、7月初旬の台風7号に連続した西日本の豪雨では、広島県を中心に死者200名を超える大災害となりました。気象庁が50年に1度という「大雨特別警報」で各県を通じて管内市町村への警戒通告を要請しましたが、結果としては多数の犠牲者を出してしまいました。警告対象は数10万人規模でしたが、このうち警告を受けて避難した方はいずれの地域でも10%に満たない結果が報告されまし

た。もちろん多数の犠牲者を出した主原因は、豪雨とインフラの未整備が挙げられていますが、ハザードマップを基準とした警告の住民への周知の難しさが浮き彫りにされました。

幸いにして被害に遭うことが無かった本県ですが、近年の異常気象とあわせて、富士山噴火の被災対策が課題になっています。今夏は、机上の対策ではなく、警告と住民の皆様との連携の再検討が新たな課題であることを痛感させられました。

山梨県議会議員

白壁賢一

お気軽にご意見を  
お聞かせください。

「白壁賢一」で検索してください!

白壁賢一

検索

山梨県議会議員  
白壁賢一

【しらべけんいち】

1960年生まれ。93年に33歳で旧河口湖町議に初当選、3期務める。2003年に富士河口湖町議に当選し2期。この間、議長などを歴任。07年に山梨県議会議員に初当選。現在3期目。

TEL 0555-73-3737 FAX 0555-73-3757

〒401-0301 山梨県南都留郡富士河口湖町船津1505

白壁賢一 公式サイト: <http://www.shirakabekenichi.jp/>

白壁賢一 E-Mail: [Shirakabe@kawaguchiko.ne.jp](mailto:Shirakabe@kawaguchiko.ne.jp)





# 議長就任から 10ヵ月が経過して

昨年12月定例議会において議長に選任され、早10ヵ月が過ぎようとしています。

就任時の所信表明で申した通り、この間、議会の融和を積極的に推進し、諸派、各党派との意見交換の場を増やし、伝統や文化を重んじ、こころの温かみを感じられる議会運営に努めて参りました。

所信表明会でお伝えした、7つの議会改革案につきましては具体的に検討を進めています。

中でも、若者の地方自治への関心と投票率向上のための高校生の模擬議事を8月6日に県内の47校の高校生が一堂に集まり、山梨県議会議事堂で、「高校生議会」として開催しました。

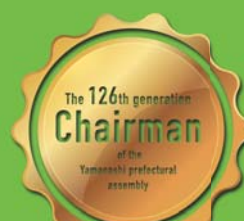
また、国際交流の更なる促進のため、3月には韓国・忠清北道との友好25周年記念事業として訪問し、7月には台湾・高雄市との友好交流覚書締結で訪問しました。

その他、県議会での積極的なペーパーレス化の推進については、議員の作業部会を立ち上げ検討を進めています。

その他の項目についても、目的達成のため議長として汗をかきながら進めています。

平成30年8月31日

山梨県議会議長 白壁 賢一



## Memorial Photo

Kenichi Shirakabe

Photo Report  
2018.3 > 2018.8



山梨いのちの日  
及び自殺対策強化月間街頭  
リレーキャンペーン (平成30年3月1日)



忠清北道議会友好訪問  
(平成30年3月26日)



南都留合庁起工式  
(平成30年4月9日)



山梨県人会連合会第68回定期総会  
(平成30年6月3日)



県鼎友会第71回定期総会  
(平成30年6月4日)



赤い羽パートナーミーティング  
(県共同募金会贈呈式) (平成30年6月8日)



恩賜林御下賜107周年記念式典 (平成30年3月11日) 挨拶要約

明治天皇より特別の思召をもって御下賜されました恩賜林は、長きにわたり木材生産のみならず、県土の保全や水源のかん養など、有形無形の様々な恵みを私たち県民に与え、地域の振興や、良好な自然環境の保全に大きく寄与してまいりました。この素晴らしい恩賜林の基礎を築き上げられた先人達に、改めて深く敬意と感謝の意を表する次第であります。

こうした、かけがえのない豊かな森林・緑を次代に確実に引き継いでいくことが、私達に課せられた責務であります。

県議会といたしましても、恩賜林が県民共通の財産として守り続けられますよう一層努力して参ります。

県馬術競技場厩舎竣工式  
(平成30年3月29日)

挨拶要約

当競技場は、建設されてから30年余りが経過しているため施設の老朽化が著しく、平成27年度から施設整備を開始し、本年度は大型の厩舎とホースマネージャー棟の整備を行い、施設の利用環境は大幅に向上することとなりました。

8月には全日本ジュニア障害馬術大会の開催が決定し、多くの大会や馬に関するイベントで活用されることで、交流人口の増加に繋がります。八ヶ岳南麓はもとより、本県のスポーツや観光の振興に重要な役割を果たします。



山梨県立富士河口湖高校入学式  
(平成30年4月10日)



鳴沢村消防団出初式  
(平成30年4月22日)



県立大学学位授与式 (平成30年3月15日)



街頭緑化キャンペーン  
(平成30年4月3日)



警察学校初任科入校式  
(平成30年4月5日)



春の全国交通安全出発式  
(平成30年4月6日)



産業技術支援センター 富士技術支援センター  
研究開発支援棟 開所式 (平成30年4月26日)



県民緑化祭り  
(平成30年5月12日)

県下戦没者慰霊祭  
(平成30年5月25日) 挨拶要約

県議会を代表し謹んで慰霊の言葉を捧げます。

『激しかり戦場の跡 眺(なが)むれば 平らけき海その果てに見ゆ』

平成5年沖縄戦没者慰霊における今上天皇の御製であります。

本日ここに、平成30年度県下戦没者慰霊祭が厳粛に執り行われるに当たり、県議会を代表し、過ぐる数次の対戦において亡くなられた全ての御霊に慰霊の誠を捧げます。

戦後73年の歳月は日本を焼け野原から立ち直らせ当時では想像もできなかった豊かな社会へと変貌させつつあります。

これもひとえに、英霊各位の尊い犠牲により、培われてきましたことと思う時、御霊に深く感謝を捧げると共に戦争の悲惨さ、平和の尊さを肝に銘じ、世界の恒久平和のために邁進すること



が英霊に伝える唯一の道であると存ずるのであります。

私共県議会も、祖国の繁栄を祈りながら一命を国に捧げられた皆様のお気持ちに改めて思いをはせ、今後ともご遺族の援護に努めるとともに、平和と幸福に満ちた社会の建設を目指して、倦まず弛まず努力することをお誓いするのであります。



富士山火山噴火対策砂防事業促進期成同盟会総会 (平成30年6月9日)



FMふじやま「ワールドミュージック」出演  
(平成30年7月11日)



静岡市清水区にある山梨県所有地  
(甲州廻米置場後) (平成30年7月16日)



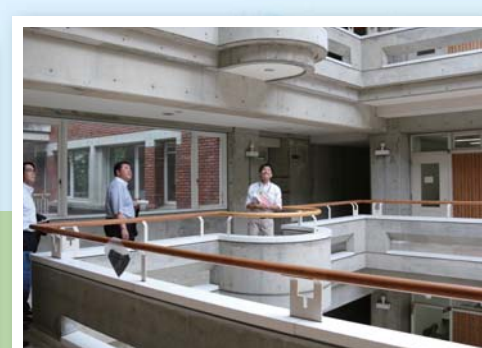
富士宮・静岡市・新城市視察  
新城市設案原歴史資料館  
(平成30年7月16日)



静岡県世界遺産センター  
(平成30年7月16日)



静岡県立ふじのくに地球環境史  
ミュージアム (平成30年7月16日)



静岡県立大学の大学変革について視察  
(平成30年7月17日)



静岡県立地震防災センター  
(平成30年7月17日)



全国都道府県議会議長会各委員会  
(平成30年7月18日)



江島 潔 自由民主党  
水産部会長と  
(平成30年7月26日)



関東甲信越1都9県議会議長会  
(平成30年8月1日)



関東甲信越1都9県議会議長会  
視察 (平成30年8月2日)